

困窮者を支える

添削ノートや無料の塾

親から子への「貧困の連鎖」を断ち切るため、生活困窮者自立支援制度では、困窮家庭の子供を対象に学習支援を行うことができる。県内では伊勢崎市と前橋市が取り組んでいる。

B5判の大学ノート。各ページには、国語や算数などの問題、解答に対する添削がびっしりと並ぶ。ほとんどが手書きだ。

伊勢崎市は、2013年5月、困窮家庭の子供を対象に無料の学習支援を始め、今年4月からは自立支援制度の事業として取り組んでいる。核となるのが、学習支援員との交換ノートだ。

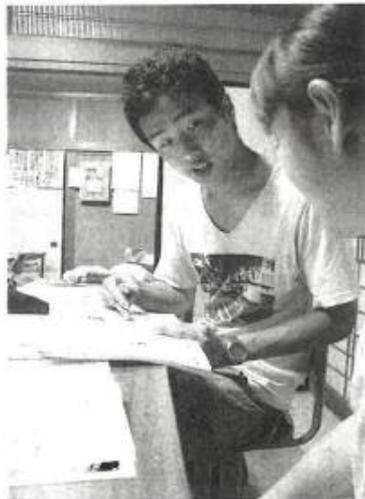
利用者は小学5年〜中学3年の約30人。中学校の教員だった2人の支援員は、子供たち一人一人に交換ノートを用意して出題し、週1回のペースで自宅へ届ける。子供が解答を書き込むと添削し、別の問題を出す。ノートは多い子で年間5〜6冊になる。

原則、対面での指導はしないが、市社会福祉課は「子供たちが好きな時間に問題を解く」ことができて好評という。昨年度は、中学3年生14人の

子供の学習支援



伊勢崎市の学習支援員が使っている交換ノート。問題や解説が、表やイラストとともにびっしりと手書きされている。個別指導が人気となっている高崎市の学習塾「HOPE」



うち12人が高校へ進学した。「学校の勉強についていけるようになった」という子や、「子供が机に向かうようになった」という保護者の声もある。

支援員の女性(61)は「勉強だけでなく、ケースワーカーと連携し家庭への支援もできる」と意義を強調している。

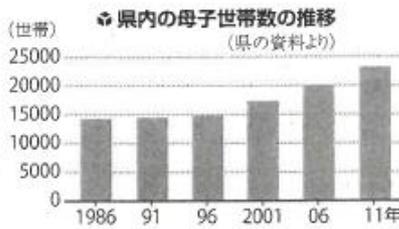
前橋市は昨年10月、「NPO教育支援協会北関東」(前橋市)に委託し、無料の学習塾「M-Change」を開

設。今年4月からは自立支援制度の事業として実施している。

公民館など6か所で週2回、夜に1時間半開かれる。市内の中学生約40人が、共愛学園前橋国際大学の学生33人から個別指導を受ける。同大

3年の工藤瑠里さん(20)は、中学3年生で九九を勉強する子や話しかけても無視していた子が、「高校に行きたい」などに変化する様子を見てきた。「子供たちの居場所にもなる」と力を込める。

民間独自の取り組みもある。高崎市内の民家を借りて運営する無料の学習塾「HOPE」。高橋寛代表(66)たち



県によると、14年3月に卒業した県内の高校生の大学進学率は51.8%だが、生活保護世帯に限ると15.7%にとどまる。半数が非正規雇用とされる母子世帯は11年に2万3356世帯に上り、10年前の1.34倍に増えた。子供の貧困に詳しい高崎経済大の吉原美那子准教授は、「生活困窮家庭の子供への学習支援は、幼い頃から行うほど効果がある。多くの自治体で市民が手を組み、一人一人に合った手厚い支援を行う必要がある」と指摘している。

が12年4月に始めた。経済的な理由で塾に通えない中学、高校生が対象で、現在13人が週2〜3回、1回2時間の個別指導を受ける。ボランティアの講師が、質問された箇所を中心に教える。中学3年の女生徒(15)は「遅れている学校の勉強に追いついてきた」と笑顔を見せた。

入塾希望者も多いが、高橋代表たちの自主的な取り組みのため、これ以上、生徒を受け入れるのは難しい。高橋代表は「自立支援制度に基づく事業として高崎市から委託費を受けて実施すれば、市内に支部を作り、講師も増やせるので、活動を広げられるだろう」と話す。

桐生南高 千葉商科大と連携 講座

進路選択を後押し



本年度1回目のサービス創造熱血講座＝6月

さまざまな分野で活躍する社会人を講師に招く桐生南高(鈴木信弘校長)の連携講座「サービス創造熱血講座」が2年目に入った。千葉商科大と連携し、野球や映画、音楽といった興味関心が高い職種を中心に、業界の実情や挫折交えた成功秘話などを紹介してもらった。第一線のプロから「熱いものを感じてほしい」として始まった講座は生徒の前に野球関連のビデオ

を後押ししている。桐生南高OBで、「築地銀座」などを展開するホットランド社長の佐瀬守男さん、日本野球機構(NPB)の関連会社役員を務める荒木重雄さんの2人が、同大サービス創造学部特命教授を務めている縁で実現した。

第一線のプロ 熱く語る

ビジネスを解説したほか、憧れのプロ野球選手になれなかった苦い経験と、それを乗り越えたエピソードを紹介した。「強い意志と絶対に諦めない気持ちで、成し遂げたい夢や達成したい目標を持つ」と後輩を激励した。これまでの講座を振り返り、小林武寛君(3年)は「好きなことを仕事にしている人ばかりで熱意を感じた」、篠原佑斗君(同)は「講師の失敗談を聞き、今からできることは準備しておきたい」と将来を見据える。これまでに荒木さんのほか、桐生市出身の映画監督、草野翔吾さん、AKB48などに楽曲提供している音楽家の近藤寛さんら計5人が講演した。第一線で活躍する講師陣の話は具体的で、仕事に対する生徒の理解を深め、進路選択の参考になっている。

高校と大学連携 県内で広がり

高校と大学の連携は、県内で広がりを見せている。共愛学園前橋国際大は昨年度、伊勢崎商高と前橋東高で、高大連携コラボゼミを開催し、高校と大学が協力してライフデザイン

について意見交換した。

高崎商科大は、協定を結ぶ県内外の高校で日本商工会議所簿記1級の取得を目指した「H1aローA(ホール・エー)プロジェクト」を展開している。講師の派遣、大学の講義を収録した動画の配信などを通して生徒の学習を後押しする。

(第三種郵便物承認)

4 カ月インターン 財団、企業と協定

前橋国際大、単位認定



協定書を手にする(左から)牛久保理事長、平田学長、松井社長

共愛学園前橋国際大(平田郁美学長)は30日、大学生の長期インターンを受け入れるサウンズ環境みらい財団(伊勢崎市寿町、牛久保久保理事長)と協定を結んだ。学生は10月5日から2016年1月末までの約4カ月間、社

会人経験を積む。同大によると、単位認定する4カ月もの長期インターンは、全国の大学の先駆けとなる取り組みだという。

同財団は1人を受け入れる。学生は、同大を含む大学生とサウンズ若手社員で活動する環境保全プロジェクト「環境ネットワークキヤンパス」の事務局で活動のけん引役として働く。司建設は2人を受け入れ、建築現場の作業や事務など幅広い業務を行う。

牛久保理事長は「環境と産業の共生を理念とし、世界中の人を呼べる求心力となつて動いてもらいたい」と期待し、松井社長は「家は着工から仕上がりまでが4カ月。多くの仲間がいて家が完成する満足感や感動を体感してほしい」と話した。

前橋市小屋原町の同大で調印式を行い、牛久保理事長と松井社長が平田学長と固い握手を交わした。平田学長は環境保全などを行う同財団と、環境に配慮した家造りが特徴の同大との協定を「環境をキーワードとして地域を支える人材育成においてまたとない学びの場」と感謝した。

同大と包括連携協定を結ぶ前橋市と市教育委員会もインターンを受け入れる。

4団体で働く男女学生5人は週1日程度、大学で講義を受け、その他は休日出勤も含めて社会人として働く。同大は年度末に成果報告会を予定している。

伊勢崎の社会福祉法人に30万 JAMサンマン 芳祖が寄付

読売新聞 群馬 GUNMA 馬

電話、配信

読売会 027-251-1000 前橋 235-6000 群馬南 205-0280 新前橋 251-1077 高崎北 323-0522
高崎南 323-0438 安中 382-1811 沼田 23-0330 吉川 24-6318 藤岡 72-0024 蕨岡 02-0150
中之条 75-2322 新町 42-0268 前橋北部 283-7575 親生 44-6111 伊勢崎 24-8555 太田 22-2323
館林 72-0607 新太田 72-4611 大泉 72-1226 大泉 62-3551 高梁 88-0075 伊勢崎 N T 53-5510

読売群馬広告社 前橋 255-2511 群馬旅行 前橋 243-6201 群馬読売アイエス 前橋 253-2304 太田 46-8269

山村と交流 学生、地域学ぶ



共愛学園前橋国際大学の学生に藤原ダムの説明をする林さん(右)



みなかみ町の藤原ダム

前橋国際大

集落の歴史・魅力発信へ



船場だけでなく、キャンパスを飛び出して、群馬の魅力を発信していく。全国的に大学と地域の連携が活発化し、県内でも若者の帰郷と大学の専門性を生かした集山村の活性化や、多文化交流に注目が集まる。3回にわたり、県内の取り組みを紹介する。

■みなかみの藤原地区
「昔、このダムの下に人が住んでいたんですか?」8月21、22日、共愛学園前橋国際大学(前橋市)の学生7人がみなかみ町藤原地区の早出集落を訪れ、住民から地域の歴史や魅力について話を聞いた。

た。大学と地域を結びつける県の「やま・さと応援隊」の活動の一環だ。
■ダム建設、生活一変
早出集落は約300年前、軽塩原から人が移り住むようになった。現在は、藤原ダムの建設に伴う移住者も念初戸約20人が暮らす。湖底には奥州軍東の藤原一馬が隠れ住んだといふ伝説が残る。藤原地区と田畑山林約1500年が沈んでいる。

た。1880年代に入り、補償費用でオートバイや車を貸すことができるようになった。事に伴い人口が増え、藤原小学校も1学年2クラスあり、現在の10倍は児童がい

「一種良かったし、周囲には水がなくて本当に苦労した。風呂を沸かすのに水を運ぶだけで半日かかった。物々交換、白粉白屋の生活だったね」。
12代前の祖先が藤原から移り住んだという藤原、林明男さん(74)は、ダム建設前の生活を振り返った。

■報告制作へ
学生たちは、8月21日のサント藤原マラソンで、給水などの手伝いにも参加した。共愛学園前橋国際大学の奥山龍一教授は、「学生が地域を好きになり、村の人も温かく受け入れてくれた。秋の稲刈りや冬にも来てほしいと声をかけていただいた。これからも交流を続けていきたい」と話した。

■「産学では学べない」
桐生市出身で学生のリーダーを務める国際社会学部4年、古井戸通さん(20)は「大学の産学では学べないことを学べた」と話す。昭和村出身の同学部4年、小野原さん(21)は「村の外の人に現状を知ってもらえるように、今日の話を卒業で伝えていきたい」と話した。

県内農山村の魅力調査

若い感性で活性化策

里町の県産業技術センターで開かれた。若い感性と専門的な学問から導かれた活性化策に約120人が耳を傾けた。

大学生が県内農山村を訪れて魅力、資源の調査や活用方法を検討する「やま・さと応縁隊」の成果発表を含めたシンポジウムが16日、前橋市龜

前橋「応縁隊」大学生が事例発表



本年度、同隊として 関東学園大、県立女子 活動した共愛学園前橋 大の学生が事例を発表 国際大、高崎経済大、 した。

フィールドワークの成果を発表する県立女子大の学生

県立女子大国文学科の班は「(すまう)文化に関する方言の収集とその活用」と題して発表した。中ノ条町六合地区をフィールドワークの地として、住居や慣習にまつわる方言を、同地区PRのツールとして用いた。いろいろを「えろり」と発音するなど、方言でかやぶき家屋の間取りを紹介したフアイルや、「あなた」を意味する「こなた」の語源「こなた」を使ったキヤッチフレーズ「あなた六合」をプリントしたポスターを制作。ポスターは、町内の施設や東

京・銀座のぐんま総合情報センター「ぐんまちゃん家」に設置を依頼するという。参加学生は「文化や歴史を世界に発信するには地域での体験が不可欠」「ポスターは四

季の風景でシリーズ化したい」と、現地での学びの成果や、今後の展望を披露した。同隊は、県が2012年度から県内大学に働き掛けている活動。毎年実施し、来年度も継続する予定。

発表に先立ち、鳥取県内で大学と地域をつなげる活動を行うNPO法人、学生人材バンクの中川玄洋代表理事が「大学生だからできる農山村の活性化」と題して講演した。



最終話は ユーチューブ公開 「温泉編」

県は16日、本県魅力を県内外に発信するプロモーション動画の最終話となる「温泉編」(第4話、約7

分)「写真」を動画サイト「ユーチューブ」に公開した。主人公の女子留学生、リタが草津温泉で温泉文化に触れ、女性が温泉を支えていることを知るという内容。メイキング映像編を3月上旬に公開する予定。

天狗岩用水の
成り立ち説明

「前橋学」で
和田さん

郷土の歴史文化への理解を深める「前橋学」の連続講座「歴史のなかの東」歴史から学ぶ「前橋」が、前橋市東公民館で開かれた。多胡碑記念館(高崎市)学芸員で県地域文化研究協議会の和田健一さんが「天狗岩用水と東地区をテーマに講演した。地域住民ら1300人が熱心に耳を傾けた。和田さんは前橋、高



天狗岩用水について話す和田さん

■ステッカーで安全啓発
高崎署(小林政夫署長)と融機関防犯・交通連絡協議会(会長)は、金融機関の営業する「地域安全ステッカー」製した。管内163カ所の金月中にも配る。



上会長が車両に貼り付けてた一写真。

ステッカーは磁石で貼り。黄色地に「みんなでつなげな街」などと書かれ、市民通安全の意識向上を呼び掛

崎両市や玉村町の一部に水を運んでいる天狗岩用水の成り立ちや現状について説明。「地域全体に自然に水が流れるような構造になっている」と話した。

生400人ぱちぱち
奇そろばんコンクール



表情でそろばんに向かう児童

共愛学園前橋国際大と
同市各公民館が協力して企画。27日午後2時から「昭和の養蚕と組合製糸群馬社」と題した講演が行われる。参加無料。問い合わせ、申し込みは同公民館(80077・2251・2598)へ。

Topics

上毛新聞
2016年 (平成28年) 3月19日 (土曜日) 社 会 (24)

社会に問う若者⑩

青春

2016春

学生が主体となり、前橋の活性化のためにさまざまな取り組みをする「やる気の木プロジェクト」に参加した。昨年12月に開かれた本年度の最終報告会で「反省を生かして、これからの活動をより良いものにしてほしい」と、メンバーを代表して後輩にバトンを託した。

大学入学を機に実家のある福島県を離れ、前橋で一人暮らしを始めた。市街地は大学から10分ほど離れていて、日常生活で立ち寄ることがほとんどなかった。

転機は1年生の終わりに打ち解けた。仲間と「合同学園祭」や、千人以上の参加者が仮装してパレードするハロウィーンイベントを主催した。市街地の魅力的な飲食店取材し、地元ラジオに出演して紹介したりもした。

移り住んだ頃は、どんな街なのかイメージすら湧かなかった前橋。足を運ぶ度に、すてきなカフェを見つけたり、魅力的な文化施設があることに気付いた。用事がなくても商店街を歩いてみたいと思うほど、この街に愛着を感じている。でも、周りには魅力に気付いていない同世代が多い。そんな人たちにも前橋の良さを知ってほしいと願っている。

4月から4年生。就職活動の時期を迎え、企業説明会などで忙しくなってきた。「やる気の木」での活動は大きな財産。経験を生かせる仕事に就きたいと考えている。

(わり)

前橋活性化

熊田 有希さん

(共愛学園前橋国際大3年)



運営に携わったイベントのチラシを手に「前橋の魅力を知ってほしい」と話す熊田さん

街の魅力気付いて

中心商店街を舞台に、模擬店や演奏会を行う

「やる気の木」が中心商店街で開いたフリーマーケットを手伝った。

県内のさまざまな大学から集まったメンバーとす

日 (火曜日)

書

宣

業

国際性ある地域人育成を

前橋国際大でフォーラム

共愛学園前橋国際大学（前橋市小屋原町）で28日、国際的な視点を持って地域で活動する「グローバル」な人材の育成を考えるフォーラムが開かれ、地元住民や企業関係者ら約140人が集まった。

グローバルは「グローバル」と「ローカル」を組み合わせた言葉。フォーラムでは「地域人材の育成と定着」をテーマに3人のパ

ネリストが意見を交わした。人材教育コンサルタントで健康社会学者の河合薫さんは「国際社会に出れば、いくら英語ができても私たちは日本人として見られる。日本のことをよく知った上で世界に出て行くことが大切だ」と強調した。

コーディネーターを務めた同大の大森昭生副学長は「学校だけ、企業だけではな

グローバル人材の育成について意見を交わすパネリスト



く、地域全体で人材を育てていきたい」と話した。

共愛学園前橋国際大(平田郁美学長)は28日、地域で必要とされる人材について考える「グローバル人材フォーラム」を前橋市小屋原町の同大で開いた。企業や行政関係者ら130

人が参加し、地域人材の育成と定着をテーマにしたパネルセッションと、海外研修や長期インターンシップに参加した学生の報告を通じて人材育成について考えた。

前橋国際大 育成と定着考える



地域人材の育成と定着について語ったパネルセッション

「グローバル」はグローバルで活躍できる人材育成
ローカルとローカルを
組み合わせた造語。同
組み合わせた造語。同
大は開学以来、国際的
視野を持ちながら地域
タレントの河合薫さん、

岐阜県で企業と若者を
つなぐ連携事業に取り
組むNPO法人Green
eも共同代表・理事の
南田修司さん、職場環
境向上に力を入れる山
十産業(山梨県)専務
の根本康文さん、大森
昭生副学長が登壇し
た。
根本さんは、かつて
不良品が出る原因を
追及していたが、解決
策を考える組織に転換
したら従業員の成長に
つながった事例を挙
げ、「学生は能力に限
界を決めないで」と強
調。南田さんは「出会
いで人生が決まる。大
学は知の拠点として学
びの基盤を作り、企業
を発掘する際は私たち
のような組織を利用し
て」と話した。
河合さんは「人は感

上毛 2016. 3. 29 (火)

求められる人材とは



情報は支局へ
TEL 027・254・9933
Fax 027・252・5321
TEL 027・360・3536
Fax 027・360・3530
TEL 0270・26・4343
Fax 0270・26・4342
調剤のお申し込みは
0120・808046へ

成長した姿 演舞で 前橋ジュニアバレエスクール



前橋ジュニアバレエスクールの発表会が、3月27日(日)に開催された。

前橋ジュニアバレエ
スクール(曾根恵子さ
ん主宰)の第59回発表
会が27日、前橋市民文
化会館で開かれた。生
徒約60人が、くろみ割
り人形など11演目で、
1年間の練習成果を披
露した。

前に



第3部の「星条旗」
は小学校低学年の19
人が出演。マーチの場
は初めのうち動きを

情で動く生き物で、そ
れがモチベーションに
つながる。学生がやつ
てみたいことを育てら
れる教育を」と大学側
に求めた。
フォーラムは、同大
が文部科学省の「経済
社会の発展を牽引す
るグローバル人材育成支
援」と「地(知)の拠
点整備事業」に採択さ
れて取り組んだ事業の
成果報告会として開か
れた。